

# 支部だより

令和3年春季 少年部・中学部審査会(一部・二部)／一般部審査会



38-01



38-02



38-03

## 目次:

ご挨拶	1
塾生だより	2～3 、16
大会レポート	3～5
行事報告	6～8
栄養コラム	9
キッズ&ジュニア	10～13
活動の様子(写真)	14
昇段レポート	15～16
活動状況	17
稽古納め(写真)	18
継続の力	19
全国大会の紹介	20
お知らせ	21
編集後記・コラム	22

## ご挨拶

日本のみならず世界中で新型コロナウイルスが猛威を奮っています。中国の武漢で確認されてから二年が過ぎましたが、まだしばらく影響は続きそうな様相です。医療機関は逼迫し、ワクチン接種に関しても様々な情報が流れ、人々は神経をとがらせています。

そんな中、ロシアのウクライナへの侵攻が始まり、戦火で傷つく人々がリアルタイムの映像で流されており、実に痛ましい限りです。その影響もあり、世界中が物価高となり、経済にも多大な影響を与えていることになり、世の中に対する不安要素がまた一つ増えることになりました。この戦争は、核兵器を所有する大国の大統領の不満の表れから行われた行為だと思われませんが、権力を持つものがその権力を絶対的なものとし、利権(推定20兆円の資産をもつとされる)をむさぼり、自我を通すことにより、多くの人々へ与える多大な影響は計り知れません。

救われるのは、世界中の多くの方々が、こうした人々の平和を蹂躪しようとする行為に対して、反対の声を上げて行動していることです。何よりも、強大な力をもって、暴力をもって人々を虐げる行為を批判し、反対の声を上げ、この出来事に心を痛める方々が、世界中にたくさんおられるという事です。

戦火で被害をうけた方々の事を映像で見ながら悲しみを共有し、何とかしてあげたい

と思い、武力で平和な市民の生活を破壊する行為に怒りを持つこと。我々から見ればこうした当たり前の気持ちを一人でも多くの方々が共有することが、武力を持たない一般市民の人々の大きな力になるもの。

見方を変えれば、こうした大きな出来事から日常の小さな出来事までも、同じ目線で俯瞰していただきたいと考えています。

街を歩いていても学校や職場でも、友人たちや家族で過ごしていても、小さな不満は数多く生まれるもの。人の暴力的な行為を否定したい気持ちがあれば、自分自身のわがままな思いから人に不満をぶつけ、言葉の暴力により人から傷つけられることがあれば、人を傷つけることがあるのもまた事実です。

日常の中で、日々当たり前に行われる人々の行動の中で今回の紛争に縮小版のような小さな悪意が行われているとすれば、人々はそのように感じるものか。ロシアのプーチンほどの大きな権力がなくとも、家族や友人、職場やあるグループの中の小さな力や権力だとしても、その力をどのように使うかで、その人物は身近な周りの方々から評価をされることとなります。人の上に立つ方は、小さなプーチン(小さな、横暴な権力者)と言われたいよう、気を付けたいものです。

## 寄稿者

「塾生便り」(一般部)

大山 智 吉田悠人  
山口莉央

「大会レポート」

太田裕司 海老原敬

「塾生便り」(少年部)

三ツ堀夏樹 石塚大河  
坂本陽紀 田村悠貴  
齋木遼太 渡邊怜汰

「昇段レポート」

宮本貴文 坪井清弘

「継続の力」

大塚吉夫